学友諸君に訴える！
サークルのこの現状を！！

中村君処分事件裁判の今日では、自治会の中で今も各体制化の名目になし、そして今は学生の自治活動を総て、今や日常化しつつあるロックアウトが勧告を全面的に認め、「安部学長は、ロックアウト解除の後も政治活動の禁止になるものへ再々で、我々サークル人の行動もまた、もサークル室及び学生自治活動に対して事の出来ない許可必要な資料許可必要は原くも引き続きロックアウトしている。

我々サークル人は、その当局の行為に対しあらゆる形で不断な話し合いの場を持ち、サークル室、新事会室を解放する様抗議して来たけれども、常に「回答は寛容的検討中より」という体制のみで、我々の要求をはねつけ続けている。そして、総務部長補佐である吉村（総務）教授達とも話し合いを持つべく我々の日程を偽えた上で、日時まで確定していたにも拘らず、総務部長代理としては、サークルの必要性を認め、今大いに助力する積りではあるが、それ一番としてまだ具体的なめどがついていないので、現状では諸君達と話しても無意味だ」という返事のみで、木村部長代理の面会を拒否してきた。

口先ではサークルの必要性を強調するといいながら、当局は諸々要求してきたサークル特に文化サークル及び体育サークルに、適正の手を差しのべて来ているのは明白な事実である。そしてある意味ではロックアウトがなされたが、これは全て管理体制強化人の指図でなされたものであり、総務会は現状に於ては、全く形骸化している。その最たるものが総務会はこの事実をいかにあって、行動するのか。現実の状況は、吉田体制のピエロと化してしまったのだ。自らの主義主張を押し通しても、そのために当局に追随している。そのピエロの議論を受け、論を行なっているのが、日本大学全体の一切の両面で今もって強まりつつあるのだ。

この不満は、やがていつの日か、明日にも爆発することであろう。

・我々サークル人は、全ての学友に訴える！！
・各教授の悪質化に弾劾の手を！
・目に見えない策動に弾劾の手を！！
・全ての学友諸君、サークル活動に参加しよう！！

（発行責任者　サークル地下書局）